

防災教育チャレンジプラン活動報告会  
発奮！「防災×STEAM道」  
共助でまもる地域のわ！

公益社団法人日本青年会議所  
関東地区協議会  
防災意識向上委員会

- 1 当団体について／本プロジェクトの目的について
- 2 実施内容と成果報告 -防災キャンプ／防災フォーラム／政策提言-
- 3 中間報告を踏まえた活動（青年会議所での波及効果）
- 4 次年度以降の取り組み

- 1 当団体について／本プロジェクトの目的について**
- 2 実施内容と成果報告 -防災キャンプ／防災フォーラム／政策提言-
- 3 中間報告を踏まえた活動（青年会議所での波及効果）
- 4 次年度以降の取り組み

## 当団体について



公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会は、  
関東地方の1都7県を活動エリアとする青年団体です。

20～40歳の若手経済人や社会人が集い、地域社会の課題解決や地域活性化を  
目的とした活動を行っており、地域振興、防災教育、環境保全、次世代リーダー育成を柱に、  
自治体や企業、住民と連携した社会貢献事業を展開しています。

その中でも、私たち防災意識向上委員会では、  
防災意識の向上を通じ、世代や人種を超えた共助の精神により、  
災害時に全世代が協力して助け合う事で  
被害を最小限に抑えることのできる社会を目指します。



## 本プロジェクトの目的



本プロジェクトは、親子を対象とした防災教育イベント「防災キャンプ」を通じ、世代や人種を超えた「共助」の精神を育むことを目的としています。

STEAM教育を活用し、実践的な防災体験や異文化交流を促進する内容で、災害時に役立つ「自助と共助」の意識を養います。

また、イベントの成果を関東地区内の青年会議所メンバーに発信、行政に対して政策提言し、防災教育の標準化や地域全体の防災力向上を図ります。

# 実施パートナーの皆様

後援

栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県、東京都、  
千葉県、山梨県、神奈川県、茨城県常総市

協力

- ・内閣府防災教育チャレンジプラン
- ・香川大学創造工学部 竹之内健介 氏
- ・文部科学省トビタテ！留学JAPAN！
- ・公益財団法人日本数学検定協会
- ・株式会社パナソニック
- ・株式会社ダイナックス都市環境研究所
- ・特定非営利活動法人親子はねやすめ
- ・株式会社エムディー
- ・株式会社GEMBA
- ・伊澤株式会社
- ・株式会社GATARI
- ・よんなな防災会



- 1 当団体について／本プロジェクトの目的について
- 2 実施内容と成果報告 -防災キャンプ／防災フォーラム／政策提言-**
- 3 中間報告を踏まえた活動（青年会議所での波及効果）
- 4 次年度以降の取り組み

5月：防災STEAMキャンプ<sup>o</sup>

7月：防災フォーラム

8月：政策提言

5月：防災STEAMキャンプ<sup>o</sup>

7月：防災フォーラム

8月：政策提言

参加費  
無料

ぼうさいSTEAM キャンプ!  
未来の防災ヒーローは君だ!



5.24 (土) 12:00 ~ 5.25 (日) 12:30

茨城県常総市「水海道あすなろの里」

茨城県常総市大塚戸町310

## 【目的】

①

「一般市民が災害時における行政の支援内容（公助）を理解し、公助を補う自助力、共助力を高めること。」

## 【対象】

②

関東在住の小学生とその保護者

## 【実施日】

2025年5月24日～25日（1泊2日）

## 【会場】

水海道あすなろの里（茨城県常総市）

## 【参加者数】

41家族/子ども49名、大人48名 計97名



【目的】

①

「一般市民が災害時における行政の支援内容（公助）を理解し、公助を補う自助力、共助力を高めること。」

②

---

**STEAM教育**を活用した防災プログラムで、

**知識伝達ではなく、自ら考える防災教育を実施！**

STEAM教育とは、Science(科学)、Technology(技術)、

Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)の5つの分野を

統合的に学び、文系・理系の枠を超えて、教科を横断的に活用し、課題の発見・解決や創造性を育む教育。

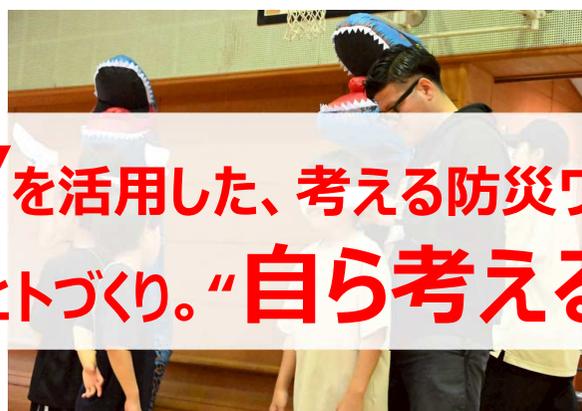
## ① : 災害時における行政の支援内容（公助）を理解

- ・常総市防災危機管理課による「避難所生活レクチャー」
- ・避難所開設は行政だが、避難所運営は市民が実施（共助の大切さ）
- ・10年前の常総市水災害に関する被災者トーク（通訳体験／異文化コミュニケーションの困難など）



## ②：公助を補う自助力、共助力を高める

- ・家族での防災計画立案ワーク（動画で雨トレ）
- ・津波の速さ体験（ドローンによる津波の速さ再現、視覚障がい模擬体験など）
- ・避難所生活シミュレーション（役割分担・困りごとカード）
- ・防災ドローン操縦体験 / ・炊き出し体験（配膳を含む） / ・夜間防災ワーク（防災クエスト）



**“STEAM教育”**を活用した、考える防災ワークプログラムを実施！  
なぜ？を発見できるヒトづくり。“自ら考えるチカラ”を養う！

5月：防災STEAMキャンプ<sup>o</sup>

7月：防災フォーラム

8月：政策提言

関東地区内155青年会議所、約6000名が集う地区大会にて、  
防災フォーラムを実施。防災の専門家によるパネルディスカッションではなく・・・  
STEAMの観点から、様々な分野の専門家による、  
新しい切り口で「防災」を捉えた内容で、これまでのプロジェクトを検証・発信。

防災とは？

多様化社会

行政の役割

防災×DX

青年会議所の  
役割



関東地区内155青年会議所、約6000名が集う地区大会にて、  
防災フォーラムを実施。防災の専門家によるパネルディスカッションではなく…  
STEAMの観点から専門家の専門知識を多面的に捉え、  
新しい切り口「防災の専門家じゃないと貢献できない」ではなく、発信。

防災とは？

多様化社会

行政の役割

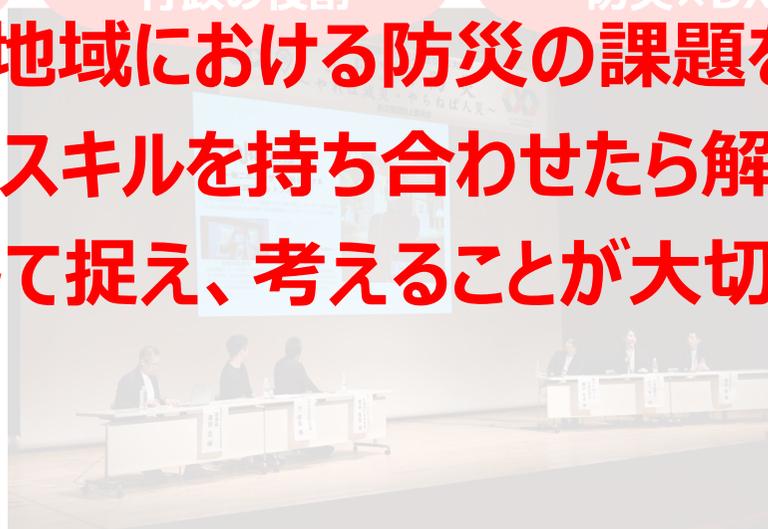
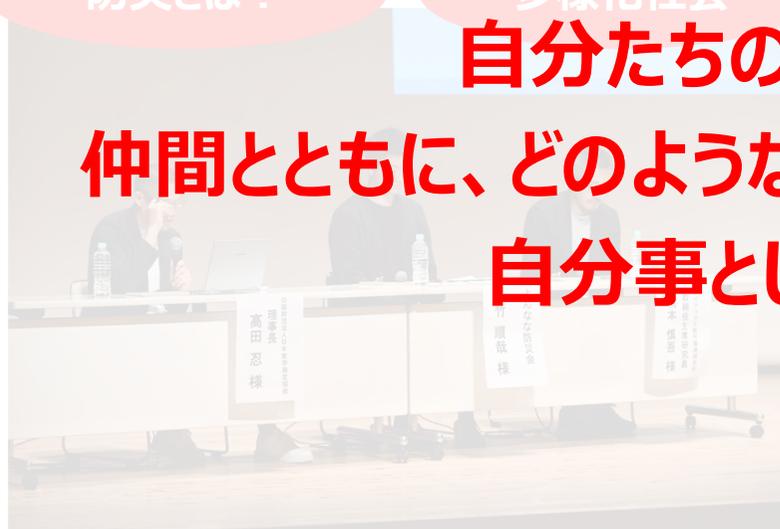
防災×DX

青年会議所の  
役割

**自分たちの地域における防災の課題を、**

**仲間とともに、どのようなスキルを持ち合わせたら解決できるか？を**

**自分事として捉え、考えることが大切。**



5月：防災STEAMキャンプ<sup>o</sup>

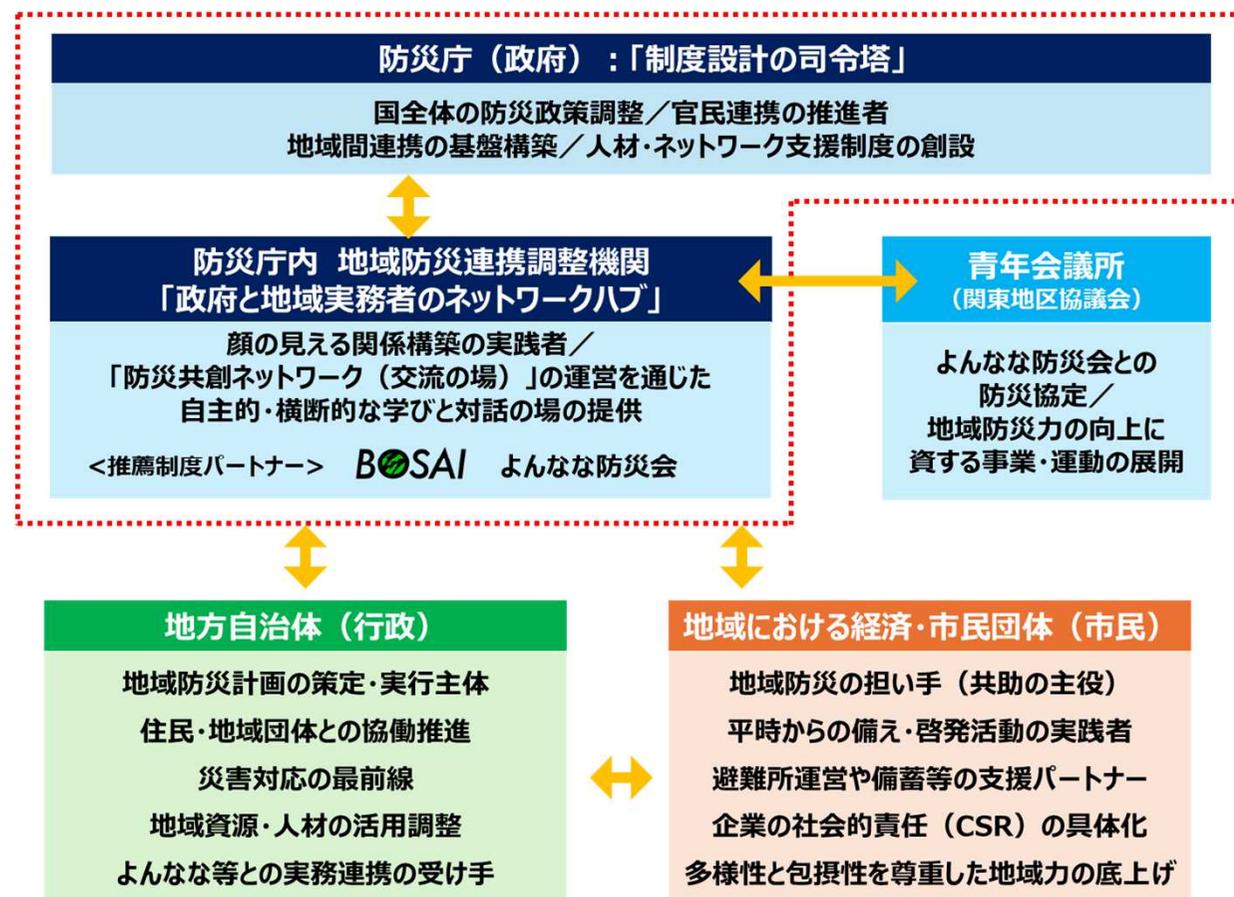
7月：防災フォーラム

8月：政策提言

内閣府、防災庁設置準備担当の赤沢大臣を表敬訪問し、  
これまでの防災事業の検証を踏まえた政策提言書を提出。  
本プロジェクトを紹介し、「命を守る仕組みづくり」に資する内容であることを説明。



**災害発生時における対応力の  
地域差、担い手の偏在を解消すべく、  
新たに設置される防災庁に、  
平時の際から政府と  
地域実務者（地域団体、市民等）を繋ぐ、  
地域防災連絡調整機関の設置を提言。**



- 1 当団体について／本プロジェクトの目的について
- 2 実施内容と成果報告 -防災キャンプ／防災フォーラム／政策提言-
- 3 中間報告を踏まえた活動（青年会議所での波及効果）**
- 4 次年度以降の取り組み

## 青年会議所だからこそできること = 組織力を活かした地域への波及

我々関東地区協議会が  
モデルケースを構築し、  
各地域に波及させていく

2025年度

青年会議所として、防災教育等の  
専門家（主力パートナー）と連携



2026年度

関東地域155の青年会議所と連携し、  
各地域の防災力を強化



## よんなな防災会との防災協定

平時から関東1都7県内の各地青年会議所活動エリアにて地域の防災意識向上に資する事業連携を目的とし、本事業パートナーである“よんなな防災会”と防災協定を締結予定。

# BOSAI

47 都道府県の防災に関心のある人たちが有志で参加し、防災、減災をキーワードに、「勉強会」や「交流会」等を通じて学び合い、繋がりを深めていく会として活動している。現在、全国各地から約2,000 名が参加。



既に関東地区内の複数の  
青年会議所から  
地域防災力向上に資する  
事業について相談を受け、  
2026年より実施していく

## 地域の青年会議所と社会福祉協議会の防災協定

現在、関東1都7県内の各地青年会議所において各地域の社会福祉協議会との防災協定締結が実施されている。過去に締結していた青年会議所でも内容の見直しが行われ、各地域の防災意識が向上している。



11月には千葉県  
館山青年会議所が  
社会福祉協議会と  
防災協定を締結  
(現在も各地青年会議所に  
波及中)

## 地域の青年会議所の防災事業のサポート

本年度連携した様々なパートナーとの繋がりを活かし、各地域の青年会議所から防災事業における相談を受け付け、連携パートナーの紹介や事業構築支援を実施。



千葉県かずさ青年会議所では  
防災サミットを実施。  
茨城県結城青年会議所では  
地域の子どもたちを対象に、  
防災キャンプの実施を検討中。

- 1 当団体について／本プロジェクトの目的について
- 2 実施内容と成果報告 -防災キャンプ／防災フォーラム／政策提言-
- 3 中間報告を踏まえた活動（青年会議所での波及効果）
- 4 次年度以降の取り組み**

# 2026年度の取り組み

本年度の取り組みを継承し、平時からの防災リテラシー向上を目指す。今後はBCPはもちろんのこと、防災の最小単位は「家庭」であることや青年会議所での活動メンバーの多くが「家庭」をもっていることから**Family Continuity Plan（FCP：家族継続計画）の普及**や、**各地域の青年会議所による防災事業実施の支援を進め**、**青年会議所の組織力を活かし、持続可能な地域防災モデルの確立を目指していく。**



防災教育チャレンジプラン活動報告会  
発奮！「防災×STEAM道」  
共助でまもる地域のわ！

公益社団法人日本青年会議所  
関東地区協議会  
防災意識向上委員会